

# 2020年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2021/11/20

団体名	NPO法人エデュケーションエーキューブ	活動タイトル	多機能型学習拠点「スタディプレイス」の事業モデル確立と展開	
<b>望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）</b>			<b>■ 活動風景</b>	
● 望ましい社会状況(ビジョン)	<p>私たちは、「Anyone can be anything!」（誰もが何でもなれる社会）をビジョンに掲げ、その実現を社会的使命として活動しています。すなわち、子どもの貧困と貧困の連鎖という社会的課題を解決し、すべての子ども達が生まれ育った地域や家庭環境に関係なく「努力により自分の目標や夢に近づくことできる」と信じている社会を望ましいと考え、その実現に向けて活動しています。</p>		<b>職業体験 (テレビ局)</b>	
● 団体の社会的役割(ミッション)	<p>私たちはICTを活用し、フリースクールや学習塾などの学校外教育の場において誰もが良質で多様な学びを低料金で受けられる環境を整え、貧困や不登校などの問題に直面する社会的マイノリティの子ども達の社会的自立を応援します。今後、「スタディプレイス」をどんな経済環境にある子どもでも選ぶことができるオルタナティブスクールへと発展させ、その事業モデルを確立し福岡市外、県外へと展開することで、すべての子ども達が経済的理由による教育や体験格差から解放される社会を目指します。</p>			
● 団体の活動基盤	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教室運営と生徒サポート担当の常勤スタッフが各教室1名以上、バックオフィス業務やファンドレイジング専任スタッフが1～2名いること。</li> <li>● 生徒が最先端のデバイスを1人1台利用できること。</li> <li>● 助成金と多様なファンドレイジングによる財源獲得や自主事業拡大のほか、奨学制度維持のため十分な寄付が確保されること。</li> <li>● ICTを活用した良質で多様な教育サービス提供のノウハウや外部との連携実績の蓄積・改善を重ね、マニュアルの更新を続けること。新規教室展開のため、空家情報等に随時アクセスできる地域ネットワークに入っていること。</li> </ul>			
<b>■ 活動報告</b>			<b>■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)</b>	
<p>2020年度は、目標としていた3教室の開校及びカリキュラムの高付加価値化に取り組むことができました。一方で、コロナウィルスの感染拡大に振り回された1年でもありました。公教育が感染拡大フェーズでも休校としない中、当スクールではこれまでのオンラインでの実施ノウハウを活用し、当スクールの強みである付加価値の高いカリキュラムを、登校（オフライン）と在宅（オンライン）を組み合わせ合わせたハイブリッドな学びの環境を提供することができました。経営面では、管理スタッフの育休が長引いたことで、人的リソース不足が生じ、認定NPOの更新審査やファンドレイジングなどの負担が増加しました。</p>			<p>2020年度の目標達成位については、下記の通りです。</p> <p>①【第3号教室の開校】 2020年10月に福岡県春日市に第3号教室を開校しました。2020年9月時点で生徒数は、16名まで増加し、教室単体で持続可能な体制が見えてきています。</p> <p>②【フリースクール事業の高付加価値化】 イェナプランのミッションに沿った対話や探求型授業などのカリキュラムを充実させました。小学校1年生の受入オルタナティブスクールとしての位置づけの認知が進みました。</p> <p>③【複合型モデルの強化】 英語教室については、コロナウィルスの感染拡大とスタッフの育成の遅れにより、事業開始が2020年10月と大幅に遅れてました。</p>	
<b>■ 事業を通じて得られたノウハウ</b>			<b>■ 望ましい社会状況を達成するための課題</b>	
<p>コロナウィルスの感染拡大の中、当スクールの強みである付加価値の高いカリキュラムを、登校（オフライン）と在宅（オンライン）を組み合わせ合わせたハイブリッドな学びの環境を提供することで、オンラインで子ども達に学びや体験の機会を届けるノウハウを蓄積することができました。また、3校を運営することにより、オルタナティブスクールの経営に関するノウハウも同時に蓄積することができました。このノウハウを活用し、オルタナティブスクールを全国展開するプラットフォーム事業を進めていきたいと考えています。</p>			<p>子ども達が本来、保証されるべき学習権が保障されていない子ども達が増加しています。義務教育の選択肢として、「学校」しかないことで、苦しんでいる子ども達や保護者が存在しています。SDGsの第4の目標である質の高い教育をみんなにを達成するためにも、学校以外の学ぶ場所としてのオルタナティブスクールの必要性が高まっています。一方で、オルタナティブスクールには公的支援がなく、授業料は家庭負担となっています。オルタナティブスクールの運営においては、運営維持のために家庭に相応の授業料を負担していただかないと、一定の質を確保しながら事業を持続していくことは困難な状況にあります。また、経済的困窮世帯では不登校になっても、オルタナティブスクールの授業料が負担できないということで、子ども達がオルタナティブスクールを選択することができないケースもあります。</p>	
			<b>■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）</b>	
			この1年間の活動を通じて	<b>第3号教室の立ち上げとカリキュラムの高付加価値化を達成しました。</b>
			<b>■ 受益者の具体的な変化（自由記入）</b>	
			<p>福岡県内主要都市の学校に通えない子ども達をサポートできる体制を構築し、80名を超える小中高生をサポートすることができました。</p>	